

を、ぼたんを表わすつもりで、胸の上部から下へ所々につけて行く。

冷たい 「寒い」と同じ手まねをして、両手を口許にもって行きかじかんた手を温めるように息を吐きつける。

露 朝——草——葉——水——玉。水玉は右手人差指と親指で小さく輪にしたのを、左手「葉」の上の所々に置いて見せる。

梅雨 (イ) 六月、七月——毎日のように——雨。  
(ロ) 梅——雨。

強い 拳にした右手の腕を肘で、たてに曲げて力縮を入れる身振り。

貫く (イ) 掌を前向けた左手の人差指と親指でつくった輪の中に右の人差指を突き通らせる。(ロ) 志(思い)を貫く。右手の人差指で腹部を指し(志)次にその手の五指の指頭を前方直角にさし掌を左側にして、まっすぐ前方へさし出して行く。

釣 指頭を前方にさした両手の人差指を一つの直線になるようにならべ(長い釣竿)魚を釣り上げる身振。

均合う 「叶う」「似合う」と同じ手まね  
釣鐘 種木から垂らした綱を両手で肩の辺で握り、鐘をつく身振。

鶴 口許で掌を前に向け指頭を前方にさした人差指の(僅か下に上部第一節のところ)親指の指頭をつけ、烏のくちばしの形をつくり、鶴の首の長さを表わすために、肘をたてに曲げてその手を少し上へ上げて、次に両手で羽ばたく身振。

雙つんば 全雙の場合。両手の掌で左右夫々の耳を塞ぐ。(ロ)難聴の場合。右手で右耳たぶを後から囲み、首を右に傾しげて聞こうとする身振り。

テ

出会う 指頭を上にした人差指の両手を  
向い合わせて、左右から接近させて、両手  
つけ合わせる。

手洗い トイレット (イ) W.C. 指頭を上  
にした人差指と中指と薬指の三指の間を稍  
々ひろげるとWの形になる。次に親指を下  
に、他の四指を上にして、その間を開いて五  
指をまるく曲げてCの形をつくる。

(ロ) 両手をこすり合わせて洗う真似をす  
る。

定価 掲げた(「揭示」の手まね) — 金銭  
— いくら。

庭園 一旦「家」の手まねをして、左手を  
その姿態のままにして残し置き、その前の空  
間に、右手の下向けた掌をぐるりと前に弧に

廻して—池—山

庭球 右手でラケットを持って球を打つ身  
振。

低級 「下等」「下品」と同じ手まね。

抵抗 右腕肘を曲げて右へ突張る(肘鉄砲  
の形)

亭主 (イ) 家—主人。(ロ) 夫

体裁 「表向き」と同じ手まね。

訂正 添削 「校正」と同じ手まね。

邸宅 家の大きさを表わす。即ち「家」の

手まねをして、両手の指頭をつけたまま、両  
手を上へ張り家の屋根を大きくさせる。

町重 (イ) 「大切」と同じ手まね(町重に

扱うこと) (ロ) 作法—叶う(町重な行いの  
こと)

定例 毎月(いつも—月) Vきまり(或は  
毎週(いつも—週))

約束) 曜日  
曜